



きじむんの どう〜ちゅいむにい〜

あなたの知らない琉球大学の秘密編

第6回 琉大に残る沖縄戦の痕跡編

ハイサーイ！キジムンヤイビーン！

「あなたの知らない琉球大学の秘密」特集最終回は、琉大内の戦跡と戦争の痕跡を紹介するよー。

75年前、ここは激戦地だった…

1945年の沖縄戦の時、いまの琉大がある位置は日本軍の最前線防衛ラインで、この地域には独立歩兵第12大隊と第14大隊(参考:一大隊が凡そ300~1000人)のほか重砲兵部隊や戦車部隊も配備されていたよ。中城の沖縄戦に詳しい中城村教育委員会の喜納大作さんや、人文社会学部の中村春菜先生によると、テニスコート裏付近には戦車第27連隊整備中隊の本部があり、シーゾマタ(千原池付近)の^{りょうまつごう}糧秣壕や陣地作りに多くの住民が駆り出されたんだって。その後、戦闘が始まると周辺住民の多くが南部へ逃げたみたい。琉大の敷地内でもっとも戦闘が激しかったのがイシグスク(142高地陣地/ロッキークラッグス)で、4月9日~22日にかけて米第7師団と日本軍との激しい戦闘が繰り広げられ、双方に多くの犠牲者を出したんだ。戦闘の激しさを物語るものとして、農学部フィールド内にある五連墓には、当時の弾痕が今でも残っているよ。また、50周年記念館横の放牧地には戦車壕の跡(本コラム2015年第11回参照)も発見されていて、この他にもガチマタの陣地壕や琉大附属病院付近の上原砲兵観測所壕など、実は多くの戦跡が残っているのが分かるね。



五連墓



戦車壕付近



1977年2月1日、この付近で遺骨45柱発見

戦後の遺骨収集

戦後イシグスク周辺は草木が一本も生えてない石灰岩むき出しの白いハゲ山だったらしいよ。この周辺には多くの遺骨が転がっていて、地域の人々はこれを収集して西原の慰霊塔や糸蒲の塔に丁重に葬ったんだって。1977年2月1日には琉大造成中に現在の南口のウェルカムプラザ付近で遺骨45柱が発見されていて、1987年11月27日にも農学部敷地内で1柱の遺骨と軍靴が見つかったよ。琉大の中でも、まだまだ遺骨収集作業は続いているんだ。

戦災文化財

最後に首里時代の琉大と関わりの深い戦争の痕跡を紹介するよ。風樹館には沖縄戦で破壊されるまで首里城正殿前に建っていた大龍柱の頭部や、漏刻門日影台方位盤(日時計)が保管されているよ。戦後、首里キャンパス内の工事現場などから表土採集された遺物が風樹館に保管されているんだ。それから、図書館の横にある「首里城の碑」(「SHURI CASTLE」)は、首里キャンパス時代の琉大が沖縄戦で破壊された首里城の跡地に建っていたことを記しているよ。



首里城の碑



上:大龍柱頭部、下:日時計

琉大の造成で地形は大きく変わってしまったけど、僕たちは首里キャンパス時代から激戦地の上で生活しているんだね〜 たまにはみんなも“汝が立つところ”に深く思いを馳せてみてね！今年度もきじむんのどう〜ちゅいむにい〜をありがとうございました！ (YM)

(取材協力/五十音順)

江藤毅先生(農学部)、喜納大作さん(中城村教育委員会)、佐々木健志先生(風樹館)、島袋美由紀さん(風樹館)、中村春菜先生(人文社会学部)

「琉大戦跡 MAP」
0Qコード↓↓

